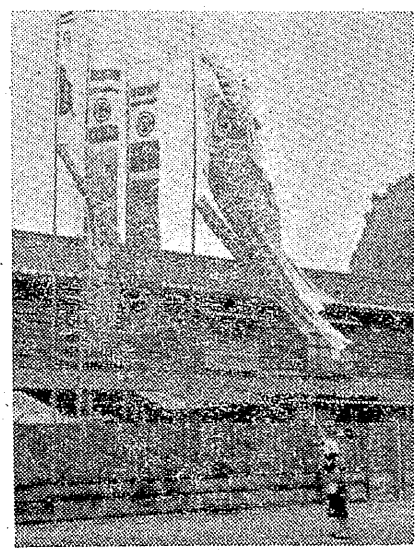
四月五月の行事及び予定

四月
二六日 春季慰安会 市民館 潜務
二七日 〃 緑ガ丘 三川
〃 メーデー前夜祭
二八日 春季慰安会 四山 四山
〃 メーデー前夜祭
二九日 春季慰安会 万田 三川
三〇日 春季慰安会 渡瀬三作 三作

五月
一日 メーデー 笹林 第一小
〃 春季慰安会 三川 三川
二日 〃 三川 三川
三日 〃 市民館 本所
〃 憲法記念日
五日 子供の日
七日 三鉱軟式野球 三作グランド
九日 〃 〃
一一日 中央委員会 労働会館
一二日 三鉱軟式優勝戦 三作グランド
〃 主婦会総会 市民館
一三日 炭労大会 一九日まで
二五日 組合総会 市民館
二八日 三鉱連大会 三一日まで



三池四つに大会新

三山陸競で三池優勝

第十五回三井三山対抗陸上競技大会は四月十四日（日）午前九時から大牟田記念グラウンドで開始された。

この日風がやゝ強かつたが、上乗のスポーツ日和で、おまけに雨上りで固つたグラウンドのコンディションも申し分なしというなかで開始され、早くも競技前から大会記録更新が大きな期待をもつてみられていたが、予想に違わず四つの大会新記録が打立てられ、この四つの記録がすべて三池で占められた。

【成績】

優勝三池（百十三点）　二位田川（九十五点）　三位山野（六十八点）

【トラック】

◎百米＝野見山稔（三）十一秒一
◎二百米＝小林泰彦（田）二十三秒八
◎四百米＝金蔵鉄士（山）五十三秒一
◎四百米リレー＝三池四十五秒一（大会新記録）
◎八百米＝金蔵鉄士（山）二分一秒
◎千五百米＝久野政英（田）四分六秒
◎千六百米リレー＝田川三分四十一秒四
◎五千米＝兼行奨（三）十五分二十五秒六（大会新記録）

【フィルド】

◎砲丸投＝沢田和彦（三）十一米三十（大会新記録）
◎走高跳＝林孝良（三）一米七十五
◎円盤投＝沢田和彦（三）三十三米（大会新記録）
◎走巾跳＝樋口利広（山）六米三十四
◎槍投＝遠藤勇人（三）四十九米九
◎三段跳＝えの本正（山）十三米四十一

以上の成績であるが、とくに三池は昨年も優勝を行つているが、トラックでは山野に敗れているし、今年はトラック、フィルドとも完勝した。

好天に恵まれて各選手のコンディションもよく、スタンドも一杯に埋もれるほどの観客で盛況だつた沢田選手の円盤、砲丸投での二つの大会新、兼行選手の五千米大会新はとくに注目に価した。

槍投の遠藤選手も力闘し大会新は出なかつたが、清さとともに大いにこんごに期待が持たれている。（写真上百米、下五千米の兼行）

埋つた西川（五）

三川 志 久慈悠一 本 太 画

「えー、何ばぼさぼさしとるかね坑長室だ、坑長室だよ！」

その間、右手の指で机を交互にたたきながら、いらいらして天井を見廻していた。顔は炭塵に汚れくぼんだ目尻からしわが三、四本づつ両側へ走り、もうそろそろ停年前を思わせた。

「もしもし、M係長は居られるでしようか？一寸待つて下さい」

「もしもし、SですがM係長ですか」

「あー。そうだが、何かね」

係長の威厳のこもつた声だつた

「はー、はい。右十一片のローダ切羽がばれて一名埋つています」

「なに！ローダ切羽がばれた。君ローダは大丈夫かね！」

と係長の狼狽した顔が見えるような、うわずつた声であつた。

「はい、ローダは丁度切羽の外へ出ていたので異常ありません」

「そうか、そりやよかつた。それで埋つている者はどうかね」

「はあ、まだはつきりわかりません」

「そうか、これからすぐぼくも行くから」

ガチヤリと受話器の置かれる音がした。

見張へ道具を取りに行つていた坑夫が声を高くした。

「おい！係長は人間よりもローダの方ば先に心配しようたごたるばい」

「ああ、会社は人間より、機械が大事かつじやろ」

「ずつと前も、坑内で火災が起きたとき、人間が中にいることを知りながら、密閉したげな。今も昔も変るもんかな」

と年輩の坑夫がつぶやいた。それから口をきく者もなく作業が続けられていつた。

――

どれほど時間が経過したか、西川は全然見当がつかなかつた。坑外でならば、明るさの加減によつて、時計がなくても、大体の見当はつくが、この暗い切羽ではまつたく通用しなかつた。安全灯の白い光から、うすいだいだい色に変り、やがて線香の火のようになつた。それは生命の灯がすこしづつ消えようとしていたのである。妻の髪のにおい、甘い体臭が、あの乳房のふくらみ、なだらかな腰の曲線。そつと手でなでてみた。あのむつちりした尻のふくらみが、手を通して伝わつてくる。力一杯抱きしめたい衝動にかられ、思いきり抱きしめた。

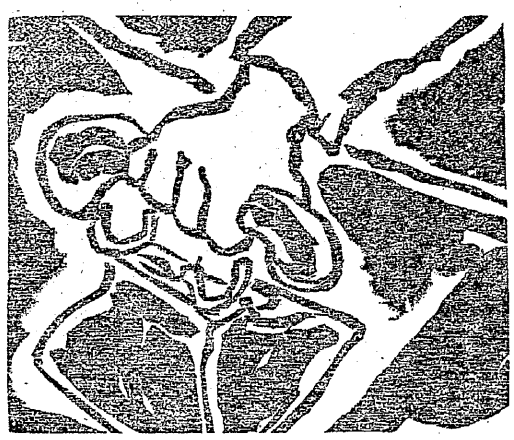
あー、俺はたまらなくなつた。どおしても生きたい。いや！どうしても生きなくてはならない。と思うと「死」が一つの暗いかげとなり襲いかかつて来た。

あの休憩所の話のかげには「死」に対するあきらめがかくされている。また将来を考える欲望も。

「俺には解る。今の俺にはよくわかるぞ」と西川は力一杯叫んだ。それはまた、自分自身の無気力、無決断に対する怒りに変つた。

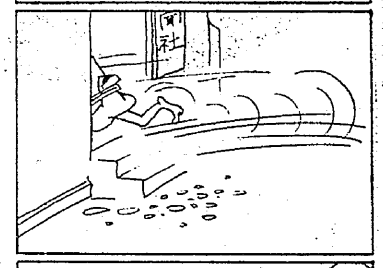
西川の顔は不安にゆがんで怖しい程だつた。

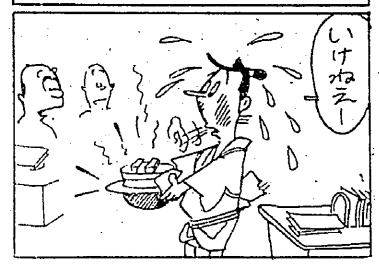
（終）



長屋太平記

中村かめお





四山・宮浦の句会

四山俳句サークル　三月二十四日）　永野 鼎哉

三池港・人工島の春色を探る。（

日曜の春西風に乾る瀝青船
立体工場明るく春の海囲ふ　田中津根

朝風の春寒海員服赤し
豆の花咲かせ岸壁より鉱区　警尾 祥松

女の前春朝に石投ぐる男
光り垂るゝ管の水飴春の風　馬場 春塔

地に伏して何する蟹や豆の花
煙筆の火蛍ふ諸所の春暖炉　谷口 周

積みあげし雲の断層より雲雀
春のストーヴたいて人工島見張　堀前はるを

或る時は油の如き春の朝
春の陽を呑みくつがへる朝黒し　入江 鴻史

船ゆきて春朝のブイ揺れ残る
春の陽の翳れば巌の海苔濃ゆし　石橋三根志

雲雀天に浚渫船の寂然と
海は春へ潜のクレーン首垂れて　観櫻句会

木いちご句会は四月七日午後一時より三池公園観桜句会を開催、三池懸渡草光氏宅で披講した。主な入選句は次の通りであつた。　山本 竜夫

花の山酔ふて椎に従ばず　加藤 香月

つぎつぎにバス来てとまる花の下　坂元 朴童

巷を茶屋よりかりて花にくむ　今村 隆一

バラの芽に柵新しき住ま居かな　中野春蹊子

石垣に花すみれ咲く行場かな　中川 ぎ丈

醒床に犬除竹の五六本　坂元 朴童

風少し出て来て花の風情かな　太田 白狼

野良着着て花見の人にうちまじり　猪本 柳紅

弁当のハエを追ひつゝ花にくむ　田中 茂季

自転車を預りもして花見茶屋　猪渡 草光

初てふのすれすれ育つ畑のもの

川柳漫歩（1）

「議長団」　三川 竜気　宮崎 天馬

○よそゆきの顔を並べた議長団
○居近し議長ここらで打ち切る気
○選め抜いた議員をまとめてほつとする
○ちよつぴりと或る日の議長腹を立て
○思いきり云えぬ議長の眼が光り
○副議長座り飽いてる午後三時
○議長団ある日裁判官に見え
○名誉議長年期を入れたさばきよう

今週の映画

○セントラル＝二十四日より「攻撃」「捨身の一撃」
○太陽館＝二十一日より「続サザエさん」「三十六人の乗客」
○大天地＝二十三日より「天の眼」「男の牙」
○銀星＝二十五日より「海底二万哩」「硝煙のユタ荒原」

囲碁教室（6）

ダメヅマリは身のつまり（2）

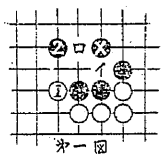
第一図、黒は×のカケツギで、イの断点を補つて一応連絡している形なので、白から直接にイを切る手段はありません。しかしカケツギは完全な連続ではないので、ダメがツマると問題が生じます。即ち白1といわゆる二目の頭をたたかれて、黒は窮屈になります。黒2を殺ると白ロと急所にツケられて黒の形が崩れてしまいます。白1は筋（手筋）で、黒2は形です。

第二図、普通のような形では黒はイとカケツグのが働いているのですが、この場合はダメヅマリのために黒1とカタツギする他ない所です。

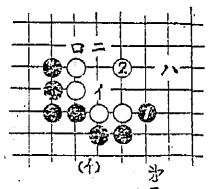
第三図、この白のダメヅマリをとがめるのに、黒には大体三つの手段があります。

イ図、その一はイと切る手で、どちらか一方の白をとることが出来ます。その二は1とハネる手で白は次に2とトンで守る位のものでしよう。次に黒ロとハネられても白は窮屈な姿で、又黒ロでハと封鎖されると、白ニに凹んで生きなければなりません。

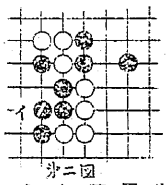
ロ図、その三は黒1と白の形の急所に打つて、得をしながら白を攻めようという手でこの場合一番適切な手段でしよう。黒3は1と関連した手段で、白は次にイとトブ位のもの。そこで黒ロにノビて得をしながら白を苦かすことになります。なお白イでロにハネるのは黒ハに切られて白は打つ手に窮します。



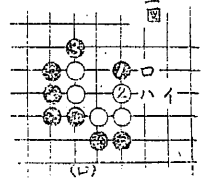
第一図



第三図



第二図



第四図

橋口初戦境 敬一

映画紹介

『攻撃』

かいせつ（米）

ロバート・アルドリッチ製作監督による戦争映画。戦火の中にサク裂する激しい憎悪の葛藤が心理的要素を加味している。原作はノーマン・ブッツ戦線を舞台に〝臆病な狐〟という歩兵部隊を描いている。ドイツ軍に攻撃されるところをクライマックスとしているが、部下と彼等を統率しなければならぬ上官との人間葛藤がテーマになつている。

みどころ　クライマックスの戦闘場面は映画としてもつとも面白い引きしまつた場面になつている。また父が将軍ということで軍隊を嫌いながら将校になつた中隊長が悪玉になつているが、この男の弱さがよく出ている。

【廿四日から　セントラルで】